

## AMR ワンヘルス東京会議 2023 会議概要（仮訳）

（※仮訳であるため、原文との相違がある場合には原文を優先する。）

2023 年 2 月 17 日

2023 年 2 月 17 日、厚生労働省は国際連合食糧農業機関、国連環境計画、世界保健機関南東アジア及び西太平洋地域事務局、国際獣疫事務局の支援のもと、AMR ワンヘルス東京会議をオンラインで開催した。主にアジア太平洋地域の 23 か国から、保健省、農水省、環境省などの局長級職員、研究者、医療関係者、関係機関の AMR 担当者など、120 名の参加者が、専門知識や経験を共有し、実り多い議論が行われた。本会議は、2016 年 4 月に開催された AMR に関する東京保健大臣会合で発足した「AMR に関するアジア太平洋ワンヘルス・イニシアチブ（ASPIRE）（※）」の進捗状況をフォローアップするものである。

（※）ASPIRE は、1）サーベイランスシステムと検査機関ネットワーク、2）医療マネジメント、3）抗微生物剤のアクセスと規制、4）研究開発の 4 つの優先領域において、地域の AMR 対策の枠組みを実現化するためのロードマップを描くことを通じて、アジア太平洋地域において AMR によってもたらされる課題について、共同で同定し、取り組むために設立された。

### 【今回の会議の目的】

- アジア太平洋地域の国々において、AMR がもたらす課題を共同で特定し、取り組む。
- アジア太平洋地域における One-Health アプローチに基づく AMR に関するアクションプランの実施状況を共有する。
- 4 つの ASPIRE ワーキンググループの 2022 年の活動状況を共有し、課題を特定し、2023 年の活動概要を議論する。

### 【議題】

- 開会の辞：厚生労働省、農林水産省、WOAH、FAO、CDC、WPRO、NIID
- セッション 1：世界およびアジア太平洋地域における AMR の進捗状況（FAO、UNEP、WHO 南東アジア・西太平洋地域事務局、WOAH）
- セッション 2：One-Health アプローチに基づく AMR に関するアクションプランの進捗状況（モンゴル、大韓民国、マレーシア、東ティモール民主共和国）、AMR に関する姫路市の取り組みについて
- セッション 3：ASPIRE の 4 つのワーキンググループの進捗状況報告
  - WG1：サーベイランスシステムと検査機関ネットワーク（議長：日本）
  - WG2：医療マネジメント（議長：日本）
  - WG3：抗微生物剤のアクセスと規制（議長：WPRO、日本）
  - WG4：研究開発（議長：タイ、シンガポール）
- セッション 4：ワーキンググループでの議論、発表

## 【会議の成果】

1. 世界およびアジア太平洋地域における AMR の進捗状況
  - 2022 年 4 月、四者構成組織の局長級により、AMR 世界行動計画に対するワンヘルスの支援及び世界的な AMR ガバナンスの強化を目的として、AMR に関する協力のための戦略的枠組みが開始された。FAORAP の進行中のプロジェクトとしては、CODEX 基準の策定、アジアにおける動物衛生システムの技術支援、食品・農業分野を AMR 対策の世界的な取り組みに引き込むこと、四者構成組織と協力して、AMR に対するワンヘルスでの取り組みを強化すること等がある。
  - SEAR では、11/11 か国が AMR NAP を策定し、実施中である。10/11 か国は、人の健康のための AMR サーベイランスシステムを標準化した。3つの方向性：SUSTAIN（規格外や偽造の抗菌薬に対する規制措置の強化）、ACCELERATE（AMR に対処するための人材育成と財政投資）、INNOVATE（薬剤耐性の病原体に対する新しいワクチンの研究）。
  - WPR では、21/27 か国が AMR NAP を実施し、6/27 か国が第 2 次 AMR NAP を実施中である。WPRO は、医療機関における AMR アウトブレイク対応の能力構築のため、地域 AMR アウトブレイク対応ガイダンスを発行し、また地域の AMR 疾病負荷を発表する予定。さらに地域の抗菌薬スチュワードシップワークブックとトレーニングパッケージを完成させ、WPR Antimicrobial Consumption Surveillance System (WPRACSS) を立ち上げた。
  - WOHAI は、動物福祉と獣医公衆衛生の向上のため国際基準を更新しつつ加盟国/地域による批准を支援し、世界各地のコラボレーティング・センターや研究所ネットワークと連携した研修等を実施している。抗菌薬の獣医畜産分野での使用（AMU）に関するデータベースおよび年次報告書は、国際的な行動計画に基づく旗艦的プログラムのひとつである。
  - UNEP: AMR のワンヘルス対応における環境分野の取り組みの強化は、社会における AMR のリスクと負担を軽減するだけでなく、生物多様性の損失、気候変動、汚染という 3 重の地球危機への対応にもつながる。Water-based Epidemiology、Air Quality Monitoring、Circular Economy がツールとして活用されることが期待されている。
  - 姫路市は、2022 年に「AMR 対策推進のまち」を宣言して以来、自治体が広報媒体やイベントを通じて市民に直接啓発する機会が多いこと、AMR 対策が市民の健康寿命を延ばす活動につながるなどから、自治体が AMR 対策に取り組む意義は大きいという認識のもと、手洗いや抗菌薬適正使用など、AMR に関する市民への啓発活動に取り組んでいる。

## 2. ASPIRE ワーキンググループの進捗状況

### ① ワーキンググループ1：サーベイランスシステムと検査機関ネットワーク

- 目的
  - ♦ AMR サーベイランス活動に関する情報共有を促進する。
  - ♦ AMR サーベイランス活動に関する連携を強化する。
  - ♦ AMR サーベイランス活動のための地域のキャパシティと能力を向上させる。
- ASPIRE ワーキンググループメンバーサイトは、2022 年 4 月に WG メンバー国のみにより正式に公開した。
- 多くの WG1 参加国が GLASS に国別データを提出している。次のステップとして、ASIARS-Net の試行に参加して病院単位のフィードバックレポートを作成すること（そのためには各国のデータを WHONET から出力するか、Excel に保存されているデータを ASIARS-Net のツールで変換すること）を勧めた。他の WG1 参加国にも ASIARS-Net の試行への参加を勧めている。
- Tricycle サーベイランスプロジェクトについて、3 か国がプロジェクトのためのサンプル収集を開始し、2023 年にはさらに参加国が増える予定である。各国の実情に沿った指標や採取場所の必要性が議論された。

### ② ワーキンググループ2：医療マネジメント

- 2021-2023 年の活動範囲と目標
  - ♦ ヒトの健康、動物の健康、環境における AMR のリスク評価方法に関する方法論
  - ♦ AMR アウトブレイク対応ネットワークを構築し、ヒトの健康、可能であれば動物の健康と環境分野について、AMR 病原体の発生/アウトブレイクに対するリスク評価と対応に関するガイダンスを作成する。
- AMR のアウトブレイクに対するリスク評価の実施及び公衆衛生上の対応における課題としては、資金、微生物学者、疫学者、隔離室などが限られていること、病院や保健当局間のアウトブレイクへの対応の違い、国内の地域による体制と対応能力の多様性がある。
- リスク評価スキームを動物、食品、環境分野に適用する際の課題の 1 つとして、これらの分野で特定の病原体をどのように検出するかということがある。
- 2023 年には、2022 年に 7 カ国を招聘し開催したワークショップの成果がガイダンス文書として出版される予定。2023 年 2 月には、ガイダンスに基づくリスク評価と対応のためのトレーナー養成ワークショップを開催し、40 名以上の専門家が参加した。
- アウトブレイク対応のためのリスク評価手法の動物・環境分野への応用の可能性については、さらに検討する予定である。

### ③ ワーキンググループ3：抗微生物剤のアクセスと規制

- プラン
  - ♦ 「抗菌薬適正使用マニュアル」の紹介。
  - ♦ 病院で抗菌薬管理プログラム（ASP）を進めるためのパートナーシップの確立。
- 「抗菌薬管理マニュアル」に関心のある国に対し、ニーズに合わせてカスタマイズしたマニュアルを作成する準備を行った。
- アジア太平洋地域の現地の医療制度に合わせた ASP の支援を計画した。
- 2022年11月、NCGM はブータンとの間で AMR に関する協力関係を締結した。
- 処方箋の無い抗生物質使用については、各国の健康保険やインセンティブなど、潜在的な経済的交絡要因を考慮することが必要である。
- WG3 では、動物・健康面での処方箋なし抗菌薬購入の状況を引き続き調査し、畜産分野での抗菌薬使用ガイドラインの状況を次年度に確認し、他国での One Health の取り組みをアップデートする予定。

### ④ ワーキンググループ4：研究開発

- WG4 は WG1 と緊密に連携し、AMR の分子またはゲノム疫学に関する知識を深めている。この知識は、AMR 制御のための政策の指針として活用される予定。
- 「アジアにおける薬剤耐性菌のゲノム解析」プロジェクトは進行中である。
- グループディスカッションのポイント
  - ♦ One Health の AMR 研究は非常に幅広く、各国の研究優先度設定の違い、学際的・専門的な連携の必要性、研究の能力開発など、多くの取り組むべき課題がある。
  - ♦ 研究プロトコルや結果を共有し、さらなるネットワーキングを可能にするため、将来的に地域ワンヘルス AMR 研究ミーティングを開催する可能性がある。
  - ♦ 地域/アジアの研究に対する資金が比較的限られている。

国際協力の重要性と国際社会における日本の役割を認識し、厚生労働省は今後も本会議を毎年開催していく予定。

以上